

【高精細カラー版】

げ き に つ き しんしょう 外記日記 新抄 一

尊経閣善本影印集成 第九輯 鎌倉室町古記録 (全10冊)

第72冊 8月25日刊行(第2回配本) ● A4判横本・272頁・貼函入 本体37,000円

前田育徳会尊経閣文庫 編 【編集委員】尾上陽介・加藤友康

記録類が少ない鎌倉時代後期の政治史を知る！
紙背文書全160紙を透過光撮影し、これまで判読困難だった文言がみえる！



遠藤珠紀

透過光撮影で読み解く紙背文書
『外記日記 新抄』の見どころ

◆記録が少ない鎌倉時代後期の政治史を知る

今年度より刊行の始まった『尊経閣善本影印集成』第九輯鎌倉室町古記録編のうち、七十二冊・七十三冊では、『外記日記 新抄』巻一(五、『享祿二年外記日記』が紹介される。この『外記日記 新抄』は鎌倉時代後期の中原氏西大路流の師種の日記を、その孫師榮がまとめたと推測される史料である。文永元年(一二六四)〜四年、弘安一〇年(一二八七)の五年分がほぼ通年で残されている。中原氏西大路流は朝廷の事務部局である外記局の外記を輩出した一族である。本記は西大路流の断絶後、同じく外記局中原氏押小路流に伝えられ、元禄二年(一六八九)ごろに前田家に入った。

この日記には、將軍宗尊親王の追放、様々な鎌倉とのやりとり、蒙古からの牒状の到来、南禅寺の創建、勅撰集続古今和歌集の選集など興味深い記事が多く見える。他の記録の多くはない時期にあって、貴重な史料である。

【中面へ続く】

八木書店

ご予約、定期購読承ります！

2019年9月現在

【注文書 FAX送付先】03-3291-6300 八木書店総合営業部

尊経閣善本影印集成 既刊書一覧 (分売可)

各輯内容	通し巻数	タイトル	ISBN978-4-8406-	本体価格	ご注文部数	各輯内容	通し巻数	タイトル	ISBN978-4-8406-	本体価格	ご注文部数	
第1輯 儀式書 (モノクロ網目版)	1	西宮記 1【重文】	2301-8	17,476		第6輯 古代説話 (二色刷)	40	日本靈異記【重文】	2340-7	18,000		
	2	西宮記 2【重文】	2302-5	17,476			41	三宝絵【重文】 日本往生極楽記【重文】	2341-4	26,000		
	3	西宮記 3【重文】	2303-2	19,417			42	新猿樂記【重文】	2342-1	25,000		
	4	西宮記 4【重文】	2304-9	【品切】			43	三宝感応要略録【重文】	2343-8	26,000		
	5	西宮記 5【重文】	2305-6	17,476			44	江談抄【重文】	2344-5	21,000		
	6	西宮記 6【重文】	2306-3	26,214			45	中外抄【重文】	2345-2	22,000		
	7	北山抄 1【国宝】	2307-0	【品切】			第7輯 平安鎌倉 儀式書 (二色刷/48のみ高精細カラー版)	46	内裏式	2346-9	18,000	
	8	北山抄 2【国宝】	2308-7	24,272				47	本朝月令要文・小野宮故実旧例・年中行事秘抄	2347-6	26,000	
	9	北山抄 3【国宝】	2309-4	21,359				48	雲図抄	2348-3	22,000	
	10	江次第 1	2310-0	29,126				49	無題号記録 春玉秘抄	2349-0	25,000	
	11	江次第 2	2311-7	21,359				50	春除目抄 京官除目次第 他	2350-6	28,000	
	12	江次第 3	2312-4	17,476				51	禁秘御抄	2351-3	24,000	
第2輯 類書 (二色刷)	13	秘府略【国宝】	2313-1	19,000		52		局中宝	2352-0	26,000		
	14	二中歴 1【重文】	2314-8	【品切】		53		夕拝備急至要抄 参議要抄	2353-7	19,000		
	15	二中歴 2【重文】	2315-5	28,000		54		羽林要秘抄 上卿簡要抄	2354-4	18,000		
	16	二中歴 3【重文】 掌中歴	2316-2	25,000		55		消息礼事及書礼事 他	2355-1	28,000		
	17	拾芥抄	2317-9	31,000		第8輯 平安古記録 (高精細刷版)	56	小右記 1【重文】	2356-8	32,000		
第3輯 古辞書 (二色刷)	18	色葉字類抄 1【重文】	2318-6	【品切】			57	小右記 2【重文】	2357-5	32,000		
	19	色葉字類抄 2【重文】	2319-3	30,000			58	小右記 3【重文】	2358-2	32,000		
	20	節用集	2320-9	20,000			59	小右記 4【重文】	2359-9	32,000		
	21	字鏡集 1	2321-6	30,000			60	小右記 5【重文】	2360-5	33,000		
	22	字鏡集 2	2322-3	30,000			61	小右記 6【重文】	2361-2	33,000		
	23	字鏡集 3	2323-0	30,000			62	小右記 7【重文】	2362-9	33,000		
	24	字鏡集 4	2324-7	30,000			63	小右記 8【重文】	2363-6	33,000		
	25	温故知新書 童蒙演論	2325-4	28,000			64	小右記 9【重文】	2364-3	33,000		
第4輯 古代史籍 (二色刷)	26	日本書紀【国宝】	2326-1	20,000			65	水左記【国宝】	2365-0	32,000		
	27	積日本紀 1【重文】	2327-8	30,000		66	台記 (宇槐記抄・台記抄・宇槐雑抄)	2366-7	33,000			
	28	積日本紀 2【重文】	2328-5	30,000		第9輯 鎌倉室町 古記録 (高精細刷版) 定期購読承ります！	67	実躬卿記 1【重文】	2367-4	35,000		
	29	積日本紀 3【重文】	2329-2	30,000			68	実躬卿記 2【重文】 ^{19年11月予定}	2368-1	予定36,000		
	30	古事記	2330-8	26,000			69	実躬卿記 3【重文】 ^{20年11月予定}	2369-8	予定36,000		
	31	古語拾遺【重文】	2331-5	25,000			70	実躬卿記 4・宣陽門院御落飾記・後愚昧記 山門歌詠記・実豊卿記 ^{21年8月予定}	2370-4	予定37,000		
	32	類聚国史 1【国宝】	2332-2	33,000			71	公秀公記 建治三年記【重文】 実隆公記 ^{20年5月予定}	2371-1	予定35,000		
33	類聚国史 2【国宝】	2333-9	33,000		72		外記日記 新抄 1	2372-8	37,000			
34	類聚国史 3【国宝】	2334-6	33,000		73		外記日記新抄 2 享祿二年外記日記 ^{20年8月予定}	2373-5	予定36,000			
第5輯 古代法制史料 (二色刷)	35	交替式 法曹類林【重文】	2335-3	24,000			74	碧山日録 1 ^{20年2月予定}	2374-2	予定36,000		
	36	政事要略【重文】	2336-0	26,000			75	碧山日録 2 ^{21年2月予定}	2375-9	予定36,000		
	37	類聚三代格 1	2337-7	33,000			76	蔗軒日録 盲聾記 ^{21年5月予定}	2376-6	予定37,000		

お名前 (ふりがな)	TEL	取扱店 (番線印)
ご住所 〒	FAX	
	E-MAIL	

【お申込み・お問い合わせ先】八木書店総合営業部 TEL03-3291-2961/FAX03-3291-6300/E-mail pub@books-yagi.co.jp

◆貴重な紙背文書約一六〇紙の全貌を初公開

さらに全巻にわたり紙背文書が存在する。今回、この紙背文書も全点撮影、収録された。紙背文書は年号のはっきりしたものは、延慶二年（一三〇九）～貞和二年（一三四六）の文書を中心に確認でき、殊に康永年中（一三四二～一三四五）の文書が多く見える。一六〇紙にわたる紙背文書のうち、三〇通ほどは『大日本史料』第六編に収録されているが、残りの約一三〇通ほどは未翻刻・未紹介で、本冊の刊行により、全貌が確認できるようになった。朝儀に関する文書、公卿補任や補歴書写、昇進を望む申状といった公家社会に関わる文書はもちろん、家領に関わる文書、借用状、契約状などさまざまな内容が見える。巻一・二には院文殿関係と推測される文書も多い。

かつ本記の紙背には修補の過程で裏打ちがなされており、これまで原本を見なくては判読が困難であった。今回『尊経閣善本影印集成』では、高精細カラー図版に加えて透過光撮影が行われ、その画像も参考図版として掲載されている。これによってこれまで見えなかった文字も読み解けるようになった。

◆透過光撮影の威力

一例をご紹介します。巻四、一紙目～三紙目の紙背には、建武四年（一三三七）の光厳院の院宣以下文書七通の案文が写されている。この院宣は讃岐国河津郷を宣政門院雑掌に沙汰し付けるよう命じたものである。この命令が守護から守護代、守護代から河津郷代官へと命令が伝達されていく各段階の文書で、足利政権初期の命令伝達の流れが確認できる貴重な史料である。すでに『大日本史料』建武四年十月十三日条（六編四、四二二頁）に収められている。

まず院宣が菊亭兼季に発給され、兼季から「菊弟殿御施行案」（二通目）が出された。この二通目は『大日本史料』では宛所を欠いている。しかし原本を見ると、ちょうど裏打ち紙にさらに補修紙を当てた部分であることがわかる。そして今回、透過光撮影を行ったところ、「謹上 武蔵権守殿」という宛所がはっきりと確認できた（[図版参照](#)）。すなわち足利尊氏の執事高師直宛である。

続く三通目は讃岐守護細川頼氏宛引付奉書であるが、日付・差出部分が傷んでおり、補修紙が当てられている。この部分も透過光撮影により「建武四年十一月十九日」という日付、および差出部分の残画が判読できた。差出は『大日本史料』では「沙弥」とされているが、「□□（武蔵）守判」と判読される。

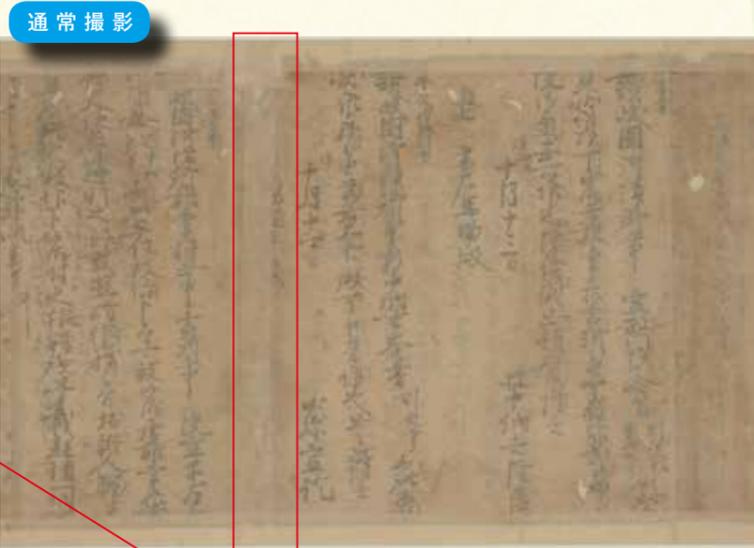
また七通目も『大日本史料』では冒頭の一部のみ紹介されているが、従来より五行分ほど多く文字が確認できる。さらにこの七通に接続する第四紙紙背も関連史料であることがわかった。

このように従来判読困難だった日付や文章が確認できる文書がいくつも存在する。特に傷みの関係で裏打ちの厚かった巻三、巻四の紙背が窺える。本冊では、通常撮影と透過光撮影が上下に配されているので、ぜひ両者を見比べていただきたい。

遠藤珠紀（えんどう たまき）
東京大学史料編纂所助教・博士（文学）。中世朝廷制度史。（主な著書）『中世朝廷の官司制度』（吉川弘文館、二〇一一年）・『尊経閣善本影印集成七・七三 外記日記 新抄・享禄二年外記日記』（解説執筆、八木書店、二〇一九年・二〇二〇年予定）・『尊経閣善本影印集成五二 局中宝』（解説執筆、八木書店、二〇二二年・共編『勘仲記』三〇六（八木書店、二〇一三年～二〇一九年・共編『兼見卿記』一〇七（八木書店、二〇一四年～二〇一九年）・『大日本古記録 薩戒記 六・別巻（岩波書店、二〇一六年・二〇一九年）

◆記録類が少ない鎌倉時代後期の政治史を知る
【第72冊・第73冊】
外記日記 新抄
鎌倉時代後期（南北朝時代写）・五巻
【所収】文永元年～四年（二二六四～六七）
弘安十年（二二八七）
【解説】遠藤珠紀（東京大学史料編纂所）

唯一の古写本



通常撮影



透過光撮影

「謹上 武蔵権守殿」

『大日本史料』（建武4年10月13日条）では補修紙で隠れているために判読できなかった宛所が、透過光撮影により「謹上 武蔵権守殿」、すなわち足利尊氏の執事高師直宛と判明する。

【尊経閣善本影印集成 73 所収】

中原氏西大路流の中原師種（生没年未詳）による日記。十四世紀半ばに中原師榮によって書写された。文永元年～同四年（二二六四～六七）・弘安十年（二二八七）の五年分を所収する。記録類が少ない鎌倉時代後期において、政治史的に重要な記事を多く含み、貴重である。

尊経閣本は唯一の古写本であり、他の写本は尊経閣本の系統となる。『統史籍集覧』に「新抄」として翻刻されるが、国会図書館を底本としており、良質な写本の公開が望まれていた。紙背文書は『大日本史料』で一部翻刻されているが、今回の影印により全容が初めて公開される。

